

日系移民画家・国吉康雄の日米における受容研究

代表研究者	武澤 里映 兵庫県立美術館 常設展・コレクション収集管理担当 学芸員
共同研究者	橋本 こずえ 兵庫県立美術館 特別展・国際交流担当 主査 学芸員
共同研究者	伊藤 駿 岡山大学 学術研究院教育学域《国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座》 特任助教

研究要旨

本研究は、弱冠 16 歳で労働移民として渡米し、後にアメリカ具象美術の代表的画家となった国吉康雄(1889-1953)について、特に日米における批評での記述や画家本人の著述に焦点を当て、各国での受容の詳細とその差異や背景を明らかにするものである。研究の実施によって、国吉の日本との関わりや当時の評価について通説とは異なる知見をまとめられたとともに、戦後のアメリカでの冷戦期での国吉に対する、赤狩りによる差別的評価と芸術界における作品への高い評価という二極化した国吉の受容について、アメリカでの調査で発見された新資料を元に分析を進めることができた。

研究のスケジュールとしては、共同研究者の伊藤駿氏との連携による岡山大学および岡山県立美術館所蔵の資料調査及び展覧会への貸出処理、そして 11 月のアメリカ現地調査での各美術館での作品実見、アーカイブ調査、関係者面談などを経て、2025 年 7 月 6 日にはシープー・ワン氏（カリフォルニア大学マーセド校教授）を招へいした国際シンポジウムを実現するという流れにて、いずれも大きな問題なく計画を進めることができた。

成果としては、展覧会「藤田嗣治×国吉康雄：二人の平行・キャリア一百年目の再会」展図録に掲載された論文とコラムのほか、国際シンポジウムでのクロストークへの登壇、学芸員解説会での発表など、様々な方法で研究成果を発表し、広く発見を世に伝えることができた。